

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『超高齢社会を支える税』

町田市真光寺中学校 3学年 刈田 怜愛

私の母方の祖父は、88歳を迎え、週4回デイサービスに通っています。以前、お母さんにおじいちゃんはデイサービスで何をしているのかと聞くと、午前中は、お風呂に入れてもらう、筋力が衰えない為のトレーニングをする、お昼は昼食を食べさせてもらい、午後にはレクリエーションを楽しむ、習字をしたり季節の絵を描いたり工作をしたり、歌をうたったりしている、とのことでした。祖父は、毎回デイサービスに行くことを楽しみにしています。ある日、「楽しくて、まるで龍宮城に行っているようだよ。習字の時間はうまいとほめられるし、カラオケは、多分オレが一番うまいな。」と、嬉しそうに話してくれた時がありました。しかし大きな疑問が湧きました。デイサービスを一週間に何回も通ったら、一カ月に高い金額を請求されるのではないかと思ってお母さんに聞くと「介護が必要と認定された場合、高齢者は申請をすれば必要な介護サービスを受けられるけれど、本人が払うのは基本的に費用の一割だけではない。」ということを教えてもらいました。更に調べてみると、残りの9割のうち半分は国民が40才から払い始める介護保険から支払

われ、残りの半分は実は税金から支払われる。税金負担分は、その半分を国が負担、残りの半分を都道府県と市町村が、半分ずつ負担することです。国、都道府県、市町村の税が分担して介護を支えていると初めて知りました。祖父は今年背中を圧迫骨折し、寝起きが不自由になってしまったので、要介護4に認定され、介護ベッドを使用するようになりました。数カ月前にも、玄関で転倒したのでも手すりを複数設置しました。ベッドも手すりも介護用品をリースする会社から借りたのですが、負担するのは、一割のみで、他は介護保険料と税金が使われていることになりました。お年寄りには、病気になるったり骨折をすると、若い人とは違って元の健康状態に戻りにくく、介護が必要になります。年が経つと要介護レベルが上がることもあり、多くのサービスが必要となり、介護料もかかってくるのです。

日本は高齢化社会が進んで、2010年には65才以上の人の割合が人口の21%を超える超高齢社会を迎えてしまったそうです。現在は30%程となり、これからもっと高齢化が進み、その社会を支える税は更に重要になってくるのです。昔、若い頃、働き者だったという祖父は、今は体が曲がって杖をつかないと歩けなくなっていました。その祖父の笑顔は税に支えられているのだなと思いました。